

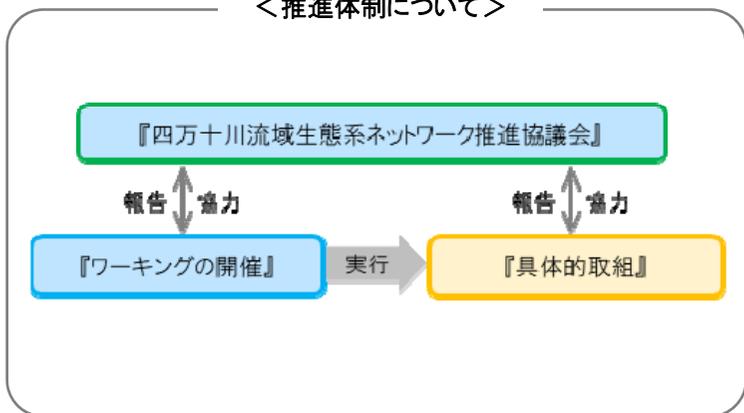
## 今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性について

---

# 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

多様な主体との連携・協働により、四万十川流域の豊かな自然環境の保全・再生と地域活性化を目指す『四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会』を2019年12月に設立しました。当協議会では、全国的な取組や今後の取組の発展、これまでの地域の取組を活かす観点からツル類を指標種に設定し、ワーキングでの活動を中心に各種取組を推進しています。

## < 推進体制について >



協議会構成員
四万十市 市長
四万十市教育委員会 教育長
四万十市区長会 会長
中村商工会議所 会頭
一般社団法人四万十市観光協会 会長
一般社団法人中村青年会議所 理事長
四万十つるの里づくりの会 会長
四万十川自然再生協議会 会長
高知野鳥の会 会長
国土交通省 中村河川国道事務所 所長



協議会の開催の様子

## 開催状況

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
2019年12月25日(水)	2021年2月16日(火)	2022年2月14日(月)	2023年2月6日(月)	2024年2月14日(水)
<p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークについて</li> <li>四万十川をとりまくこれまでの取組</li> <li>四万十川流域における生態系ネットワーク形成に向けて</li> <li>今後の進め方について</li> </ul>	<p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について</li> <li>ワーキングの開催及び取組状況について</li> <li>四万十川流域生態系ネットワーク全体構想(案)について</li> <li>北海道長沼町長 齋藤良彦氏による講演及び意見交換会</li> </ul>	<p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について</li> <li>ワーキングの開催及び取組状況について</li> <li>短期目標の達成に向けた取組(案)について</li> <li>鹿児島県出水市長 椎木伸一氏による講演及び意見交換会</li> </ul>	<p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について</li> <li>今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性について</li> <li>新潟県佐渡市長 渡辺竜吾氏による講演及び意見交換会</li> </ul>	<p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について</li> <li>今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性について</li> <li>千葉県いすみ市長 太田洋氏による講演及び意見交換会</li> </ul>

# 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想 概要

## 生態系ネットワークについて

- 生態系ネットワークとは、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有する地域を核として、それらを有機的につないでいく取組です。
- 生態系ネットワークの形成により、私たちの暮らしを支える生態系サービス(生物多様性がもたらす様々な恵み)を持続的に得ることが期待されます。また、周辺市町における農業・観光・環境教育などの取組成果に付加価値が生じ、地域の活性化に向けた展開も期待されます。
- 全国各地で河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組が進められています。四国では、2018年2月に「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立されています。

## 指標種のツル類について

- 生態系ネットワークの形成にあたっては、地域を特徴づける野生の生きものを指標種とすることが有効です。四万十川流域では、「ツル類」(主にナベツルとマナツル)を指標種に設定します。
- 現在、鹿児島県出水市では、1万羽以上のツル類が越冬しています。一極集中による感染症等の発生や農業被害などが懸念され、新越冬地形成の取組が進められています。
- 四万十市南部地域は有力な新越冬地形成の候補とされ、中筋川流域は生息地としてポテンシャルが高いことが明らかになっています。



ナベツル



マナツル

## 四万十川流域における取組状況

- 四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」が行われています。また、2006年度に設立された「四万十つるの里づくりの会」により、事業箇所周辺の越冬地整備や普及啓発の取組が継続的に行われています。
- 四万十川自然再生事業や四万十つるの里づくりの会の取組が始まってから、ツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加しています。
- 今後、ツル類が安定して越冬できるように生息環境づくりの取組を継続、拡大するとともに、ツル類を活かした地域・人づくりの取組を推進することが望まれます。



四万十つるの里祭り



体験学習会

## 四万十川流域生態系ネットワークの目標

### 四万十川流域生態系ネットワーク形成の目的

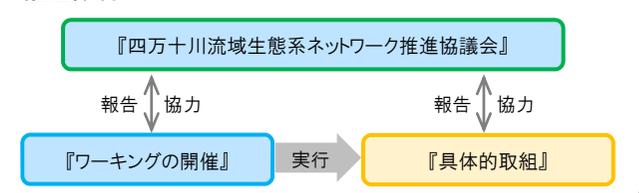
- ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

短期目標(～2025年)	中期目標(～2030年)	到達目標(～2050年)
<p><b>ツル類の安定した越冬環境づくり</b></p> <p>これまで取組が行われてきた江ノ村地区、ツル類の飛来実績が多い森沢・間地区において、農業者の理解、協力を得て、冬期湛水等のねぐら環境の創出や、二番穂の確保等の採食環境の創出が行われている。</p> <p>また、地域住民等の理解、協力を得て、ツル類への人為的なストレスが低減されている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域で越冬できるツル類の個体数が増えている。</p>	<p>江ノ村地区、森沢・間地区において、ねぐら環境・採食環境の創出、人の利用の調整が、ツル類を活かした農業振興や観光振興も相まって、継続されている。</p> <p>また、流域内のツル類の生息ポテンシャルが高い地区でも、農業者や地域住民等の理解・協力を得ながら、生息環境づくりが進められている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域でさらに多くのツル類が越冬できるようになっている。</p>	<p>四万十川流域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、「宝」である生態系と歴史・文化・伝統を活かした産業が営まれている。</p> <p>ツル類を指標とした四万十川流域での取組から、幡多地域の生態系ネットワーク形成へ取組が展開されている。</p>
<p><b>ツル類を活かした地域・人づくり</b></p> <p>江ノ村地区や森沢・間地区において、農業者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が進められている。</p> <p>地域住民等の理解、協力を得ながら、観光利用でのルール設定や受け入れ体制の構築が行われ、来訪者の受け入れが始められている。</p> <p>地域内外への情報発信や普及啓発の継続により、四万十川流域の「つるの里」としての認知度が上がっている。</p>	<p>ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が継続して取り組まれ、地域内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。</p> <p>地域の事業者等との連携・協働により、ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。</p> <p>地域内の多様な主体が参加・協働する取組になるとともに、地域外の人や組織との連携・協働が進み、地域の関係人口が増えている。</p>	<p><b>四万十市の「宝」である生態系を保全し、活かし、地域の活力にする</b></p>

## 取組内容

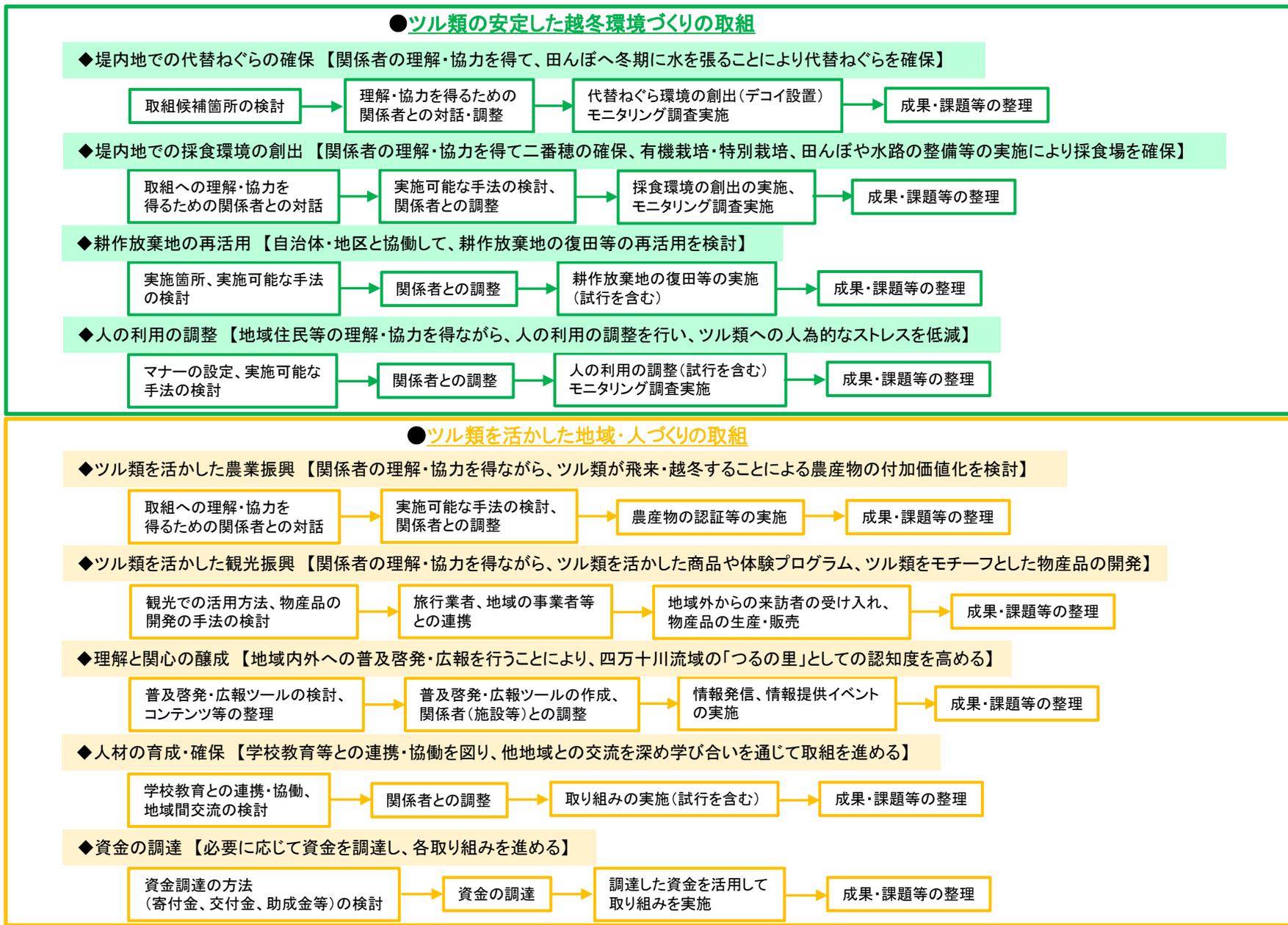
ツル類の安定した越冬環境づくりの取組	ツル類を活かした地域・人づくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆堤内地での代替ねぐらの確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期湛水</li> <li>・遮蔽帯の設置</li> </ul> </li> <li>◆堤内地での採食環境の創出                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・二番穂の確保</li> <li>・有機栽培、特別栽培</li> <li>・適度な畔の刈り取り</li> <li>・水田魚道の設置、水路の段差解消</li> <li>・水路の堰上げ</li> <li>・置石工、乱杭工</li> <li>・水路上部への蓋掛け</li> <li>・水路へのスロープの設置</li> <li>・中干しの開始時期や期間の変更</li> <li>・退避溝(江)の整備</li> </ul> </li> <li>◆耕作放棄地の再活用</li> <li>◆デコイの設置</li> <li>◆人の利用の調整                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツル類が飛来していることの周知と協力依頼</li> <li>・ツル類を刺激しない観察機会の提供</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ツル類を活かした農業振興                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の価値の向上</li> <li>・オーナー制度の導入</li> </ul> </li> <li>◆ツル類を活かした観光振興                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール設定</li> <li>・旅行商品や体験プログラムの開発</li> <li>・受け入れ体制の整備</li> <li>・物産品の開発</li> </ul> </li> <li>◆理解と関心の醸成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の拡充</li> <li>・情報提供イベントの実施</li> </ul> </li> <li>◆人材の育成・確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組への参加の機会の提供</li> <li>・学校教育等との連携・協働</li> <li>・地域間の交流の推進</li> <li>・地域外の人や組織との連携・協働</li> </ul> </li> <li>◆資金の調達                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付金の活用</li> <li>・交付金、助成金の活用</li> </ul> </li> </ul>

## 推進体制



# 四万十川流域生態系ネットワーク短期目標（2021年～2025年）の達成に向けた取組の概要

「四万十川流域生態系ネットワーク全体構想」に掲げた「短期目標」の達成に向けて、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）」を策定し、具体的な取組を進めています。



## 今年度のワーキングでの取組

今年度は、四万十川流域生態系ネットワーク短期目標（2021年～2025年）の達成に向けて、以下の取組を行いました。

### 今年度の主な取組内容

#### ツル類の安定した越冬環境づくり

##### ①堤内地での代替ねぐらの確保

- ・代替ねぐら環境の創出を2箇所で行い、江ノ村地区の代替ねぐら箇所①で、ナベツルのねぐら利用を確認できた。

##### ②デコイの設置

- ・代替ねぐらの確保に取り組んでいる2箇所に立体型デコイと平面型デコイを設置した。江ノ村地区の代替ねぐら箇所①で、ナベツルの飛来が確認できた。

##### ③人の利用の調整

- ・「広報しまんと」2024年11月号、四万十市公式ウェブサイトおよびLINEにて「四万十ツルの観察マナー」を掲載し、市民への周知を図った。
- ・四万十市におけるツル類の見守り活動実施の参考とするために、先行的に取組む愛媛県西予市への視察を実施した。

#### ツル類を活かした地域・人づくり

##### ④ツル類を活かした観光振興

- ・四万十市観光商工課、幡多広域観光協議会および土佐くろしお鉄道株式会社にヒアリングを行い、今後のツル類を活かした観光振興についての情報を得ることができた。

##### ⑤理解と関心の醸成

- ・四万十市及び宿毛市で開催されたイベントの会場や高知県立のいち動物公園（香南市）で、普及啓発パネルの展示や折り鶴体験ブースの設置を行ったほか、FMIはたらんどの番組内で、四万十川流域生態系ネットワークの取組や第16回四万十つるの里まつりのPRを行い、市内外へ情報発信することができた。
- ・ツル類を紹介する「ツルカード」を作製し、理解と関心の醸成を図る新たなツールとして活用を始めることができた。

##### ⑥人材の育成・確保

- ・東中筋小学校5年生、6年生の児童を対象に、ツルの自然体験学習会を実施したほか、四万十つるの里祭りにおいて、児童が学習した内容を発表し、来場者にツルが身近な存在であることを伝えることができた。
- ・愛媛県西予市の小学校とオンラインで情報を共有する授業を実施し、ツルの越冬地形成に取り組む地域の子も達どうしが交流を深めることができた。



ワーキング会議



西予市現地視察

## 堤内地での代替ねぐらの確保

四万十川流域においてはツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加しているものの、主要なねぐらである四万十川の砂州周辺での落ちアユ漁、中筋川沿川の狩猟等の影響により、11月中旬以降には他地域へ飛び去る個体が増加し、越冬に至る個体数は極めて少ない状況です。そのため、四万十川の砂州が利用できなくなった場合の代替ねぐらを確保する取組を進めています。

### ツル類のねぐら環境の条件

- ・ 湛水深：5～10cm
- ・ 人工光が入らないこと
- ・ 日の入り1時間前～日の出1時間後に人や犬が近づかないこと

### 代替ねぐら環境の創出

今年度は、江ノ村箇所①、実崎箇所の2箇所、冬期に田んぼへ水を張り、代替ねぐら環境を創出しています。2箇所とも自動撮影カメラを設置し、モニタリングを行っています。



2024年度の代替ねぐら環境の創出箇所



江ノ村箇所①



自動撮影カメラ



実崎箇所



自動撮影カメラ

## 堤内地での代替ねぐらの確保

代替ねぐら環境の創出に取り組んだ2箇所のうち、江ノ村箇所ではナベヅルのねぐら利用が確認され、堤内地で冬期に田んぼへ水を張ることによる効果が認められました。ツル類の安定した越冬に向け、来年度も複数箇所では代替ねぐら環境の創出に取り組むと考えています。



ナベヅル1羽  
2024年11月9日15:00撮影（江ノ村箇所①）



ナベヅル1羽  
2024年11月12日6:30撮影（江ノ村箇所①）



ナベヅル1羽  
2024年11月29日9:30撮影（江ノ村箇所①）



サギ類3羽  
2024年10月30日8:30撮影（実崎箇所）

## デコイの設置

ツル類を誘引するために、デコイ（ナベヅルの模型）を設置しています。今年度は、代替ねぐら環境の創出箇所（江ノ村箇所①、実崎箇所）、自然再生事業地（中山箇所、間箇所）、ツル類の採食環境になっている間地区（中島橋近くの田んぼ）にデコイを設置しました。江ノ村箇所①で、デコイを設置した場所へナベヅルの飛来が確認されました。

デコイの設置状況

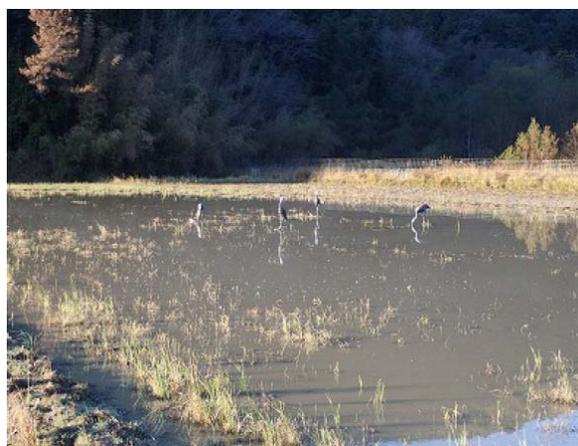
	箇所	種類	設置数
1	江ノ村箇所①	立体型デコイ	4体
2	江ノ村箇所②	平面型デコイ	4体
3	実崎箇所	立体型デコイ	4体
4	自然再生事業地中山箇所	立体型デコイ	3体
5	森沢・間・楠島地区	平面型デコイ	4体



2024年度のデコイの設置箇所



江ノ村箇所①



実崎箇所



森沢・間・楠島地区

# 人の利用の調整

四万十つるの里づくりの会により、森沢地区に継続して普及啓発看板を設置しているほか、江ノ村箇所①および実崎箇所に新たに看板を設置しました。また、「四万十ツルの観察マナー」について、四万十市と連携し、広報しまんと11月号に記事を掲載いただいたほか、今年度から四万十市公式ホームページや公式LINEによる情報発信を行いました。



江ノ村箇所①に設置した普及啓発看板



実崎箇所に設置した普及啓発看板

**ツルも安心して過ごせる四万十市を目指して**

ツル(ナベヅル、マナヅル)の越冬地は鹿児島県出水市に集中しており、病気が起こると絶滅につながる可能性があります。そのため、ツルの越冬地を分散させる取り組みが進められており、四万十市も分散地の1つになっています。

四万十川流域では、ツルが安心して過ごせるよう田んぼに水を張るねぐら環境づくりや「四万十ツルの観察マナー」の周知など、さまざまな取り組みを行っています。

その結果、昨シーズンは、3羽のナベヅルが越冬しました。今後も引き続き取り組みを進めていきますので、ご協力をお願いします。

**問い合わせ先**  
 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局(中村河川国道事務所)  
 ☎(34)7306 ✉skr-nakama45@mlit.go.jp




広報しまんと2024年11月号記事

**今年も四万十市にツルが飛来しました。**

ツル(ナベヅル、マナヅル)の越冬地は鹿児島県出水市に集中しており、病気が起こると絶滅につながる可能性があります。そのため、ツルの越冬地を分散させる取り組みが進められており、四万十市も分散地の1つになっています。

四万十川流域では、ツルが安心して過ごせるよう田んぼに水を張るねぐら環境づくりや「四万十ツルの観察マナー」の周知など、さまざまな取り組みを行っています。

令和6年も、新聞、テレビで報道されているとおり、四万十市にツルが飛来しました。

今後も引き続き取り組みを進めていきますので、ご協力をお願いします。



**問い合わせ先**  
 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局(中村河川国道事務所)  
 Tel : 0880-34-7306  
 Mail : skr-nakama45@mlit.go.jp

四万十市ホームページ

11月19日(月)

四万十ツルの観察マナー  
 新聞、テレビで報道されている通り、今年も四万十市にツルが飛来しました。  
 ツルが市内で春まで過ごせるよう「四万十ツルの観察マナー」を守り、優しくツルを見守ってください。  
<https://www.city.shimanto.lg.jp/soshiki/8/18722.html>

四万十ツルの観察マナー - 四万十市公式LINE



四万十市メニュー

四万十市公式LINE

## ツル類を活かした観光振興

2024年度も、つるの里祭りの中で、「ツルの観察バスツアー」を開催しました。祭り会場から中村河川国道事務所のバスで移動し、江ノ村箇所①でナベツルを双眼鏡や望遠鏡で観察しました。参加者11名（うち子ども1名）全員がナベツルを観察することができました。参加者に実施したアンケートでは、回答者全員からバスツアーに「満足」したという回答がありました。



バスツアー集合場所



江ノ村箇所①での観察の様子

### バスツアーアンケート集計表(アンケート回答者数:8名)

バスツアーの満足度を教えてください。

①	満足	8
②	やや満足	0
③	やや不満	0
④	不満	0

四万十市の環境を学習したり、体験したりできるイベントやツアーがあればどのようなものに参加してみたいですか？(複数回答可)

①	四万十市を代表する植物や生き物を専門家に説明してもらいながら見たり触れたりできる学習会	7
②	農業や漁業などの体験を通じて四万十市の環境を学習できるイベント	3
③	四万十市を代表する景観や環境を専門家に説明してもらいながら複数箇所巡るツアー	2
④	その他 ・野鳥を中心としたツアー。 ・巣箱づくり。	3

今回のバスツアーに参加して、印象に残ったことを教えてください。(複数回答可)

①	鹿児島県出水市にツルの飛来が集中しており、分散が求められていること	4
②	四万十川や中筋川の周辺がツルにとって重要な場所であること	4
③	冬期に田んぼへ水を張って、ツルのねぐら環境をつくっていること	3
④	ツルは警戒心が強く、人や犬などが近づくと逃げたしまうこと	2
⑤	ツルを守る活動に、東中筋小学校の児童が関わっていること	2

(無回答2名)

## 理解と関心の醸成

四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組を啓発するために、下記の通り、四万十市内外でパネル等の展示や折り鶴体験、折り鶴の色塗り体験を行いました。また、ワーキングメンバーの方々からご意見をいただきながら、ツルカードを作製し、2024年11月3日以降、イベント時に折り鶴や折り鶴の色塗り体験に参加された方へ配布しました。

### 2024年度の「理解と関心の醸成」にむけたパネル展示等の実施状況

四万十市内・外の区分	実施期間	パネル等展示を行ったイベント	展示内容
四万十市外	2024年5月28日～6月30日	高知県立のいち動物公園 企画展「四国へ飛来するツル～四万十川流域でのツルの里づくり～」の開催	立体型デコイ、平面型デコイ、パネルの展示
四万十市内	2024年10月19日	第30回四万十川ウルトラマラソン 受付会場（四万十市民スポーツセンター）での展示	パネルの展示
四万十市外	2024年11月3日	高知県立のいち動物公園 開園記念イベントでの展示	立体型デコイやパネルの展示、折り鶴体験、折り鶴の色塗り体験
四万十市外	2024年11月9日	蛍湖まつり（宿毛市）での展示	立体型デコイやパネルの展示、折り鶴体験、折り鶴の色塗り体験
四万十市内	2024年11月10日	たのしまんとリバーフェスティバルでの展示	立体型デコイやパネルの展示、折り鶴体験、折り鶴の色塗り体験
四万十市内	2024年11月30日	第16回四万十つるの里まつりでの展示	立体型デコイやパネルの展示、折り鶴体験、折り鶴の色塗り体験



のいち動物公園開園記念イベントでの折り鶴体験、折り鶴の色塗り体験(2024年11月3日)



たのしまんとリバーフェスティバルでの展示(2024年11月10日)



新たに作製したツルカード

## 理解と関心の醸成

2024年11月28日にFMはたらんどに四万十つるの里づくりの会の佐伯会長と中村河川国道事務所計画課の新谷課長が出演し、四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組や、第16回四万十つるの里祭りをPRしました。



FMはたらんどの聴取可能エリア  
出典：FMはたらんどホームページ



FMはたらんどのスタジオにて

### FMはたらんど オンエア記録

オンエア日時：2024年11月28日(木)13:25～13:50

FMはたらんど「River Side Afternoon」内に特設コーナーを設け、オンエアを実施

出演者：四万十つるの里づくりの会・佐伯達雄 会長  
中村河川国道事務所計画課・新谷大吾 課長  
FMはたらんど・山本崇史 放送局長

#### ◇主な発言

「国交省では、四万十川で自然再生事業というものを行っている。その目標は昭和40年代の四万十川の原風景の保全・再生である。(新谷課長)」

「つるの里づくりにつながる取組としては、樋門の落差解消や、河川の中にツルのねぐら環境の整備を実施している。(新谷課長)」

「つるの里づくりの会を平成18年立ち上げて、国交省さんと一緒にいろいろ事業を進めることによって、一時数が減っていたツルの飛来数が回復し、今かなり定着しつつあるという状況になっている。(佐伯会長)」

「ツルはとても警戒心が強い生きものなので、私どもはツルを見かけたら遠くから静かに見守っていただきたいと、常にお願いをしている。(佐伯会長)」

「つるの里祭りは、バスツアーあり、子どもたちの学習発表やお米の販売あり、ツル食堂ありと、盛りだくさんの内容となっているので、ぜひご来場いただきたい。(佐伯会長)」

「四万十川の原風景を取り戻していくという大きな流れと、ツルが住みやすい環境づくりは、かなり親和性が高いのではないかと感じた。国と地元のコンビネーションというものをうかがい知ることができた。(山本局長)」

## 人材の育成・確保

今年度も四万十市立東中筋小学校5年生、6年生を対象として「ツルの自然体験学習会」が実施されました。2024年10月24日に室内授業を行い、2024年11月25日に現地見学を行っています。また、第16回四万十つるの里祭りで、東中筋小学校6年生が、ツルについて学んだことを発表したほか、5、6年生が手がけた、ツルが飛来する豊かな自然など地域の良さを伝える短編映画の上映が行われました。12月13日には、東中筋小学校と西予市立石城小学校がオンラインで交流する授業が行われました。



東中筋小学校でのツルの学習会



つるの里祭りでの学習発表



つるの里祭りでの上映された短編映画のPR看板



西予市立石城小学校との交流授業

## 来年度の取組の方向性

今年度は、四万十川流域でのナベヅルの越冬はありませんでした。来年度以降、ツル類が安定して越冬できるように、ツル類の越冬環境づくりを継続するとともに、地域内外の人や組織と連携を図りながら、ツル類を活かした地域・人づくりの取組を推進します。

### ツル類の安定した越冬環境づくり

- 代替ねぐら環境を創出するため、冬期の田んぼへの水張りを複数箇所で行います。
- 中筋川の自然再生事業箇所、代替ねぐら環境の創出箇所などにデコイを設置します。
- 江ノ村地区で田んぼに二番穂を残す、もしくは荒起こし状態の維持に向けた働きかけを行います。
- ツル類への配慮を促すために、啓発看板の設置や、四万十市と連携した「四万十ツルの観察マナー」の周知を行います。  
また、ツル類の飛来状況を踏まえ、静かに見守ることを関係各所へ働きかけます。
- 四万十市におけるツル類の見守り体制の構築に向けて、必要な調整を進めます。
- 短期目標達成に向けた取組の進捗をとりまとめるとともに、中期目標達成に向けた取組項目を検討します。

### ツル類を活かした地域・人づくり

- ツル類を活かした農業振興に向けて、引き続き関係各所から情報収集し、取組の検討を行います。
- ツル類を活かした教育旅行プログラムやツル類をモチーフとした物産品の開発を、関係各所と相談しながら検討します。
- 四万十川流域の「つるの里」としての認知度を高めるために、四万十市内外の施設やイベントにおいて、パネル展示や写真展示を行います。
- ツルの自然体験学習会を継続するとともに、ツル類が飛来している他地域との交流を深めます。
- 高知県内の大学との連携を模索します。
- 短期目標達成に向けた取組の進捗をとりまとめるとともに、中期目標達成に向けた取組項目を検討します。